学校の防災活動

縁プロジェクトは、平成 28 年度において、３校で防災教室を開催し、１ヶ所の区立施設にて、子ども向け防災ゲーム会を開催しました。

松仙小学校　「避難所体験宿泊研修（ドキドキ避難所体験）」　H28.07.23(土)･24(日)

５年生と６年生の希望者が実際に学校の体育館に宿泊して､限られた物資で、停電した中一晩をすごし、震災直後の避難所を体験しました。

また、震災の語り部として、５月の「絆音楽祭」で講演をしてもらった、「ＴＴＴ」から被災したときの話を聞きました。

さまざまな疑似体験を通じて、自分たちにできることはなんだろう、ということを常に意識して、それをテーマに話し合いました。

この研修は、サポート松仙（学校支援地域本部）と協働しました。

【子どもたちの感想（抜粋）】
・めったにない体験だったのでとても緊張したけど楽しかった(６年♂)
・備蓄倉庫にはびっくりするような物がたくさんあって驚いた(５年♀)
・ＴＴＴの人たちの話で、着衣泳はとても大切だと思った(６年♂)

中高生を交えてグループ討論

まち歩きで危険箇所の確認

ツナ缶で簡易キャンドル

TTTの講話

ダンボールで寝床作り

大森第三中学校　「避難所体験宿泊研修（JRC 部避難所体験）」　H28.08.26(金)･27(土)

↑アルファ化米を配膳する

大災害発生時に生徒が学校に宿泊することを想定し、そのための必要な準備や課題をみつけ、準備の訓練と課題の解決のために、新井宿地区にある大森第三中学校で宿泊研修を行いました。この研修はＪＲＣ部（Junior Red Cross）の活動の一環として三中ＪＲＣ部のみなさんを対象にしました。

災害時に「中学生ができること」を学び、さまざまな気づきを経験してもらいました。

↑寝床作り(非常用毛布)

【生徒諸君の感想（抜粋）】
・水がひとり２リットルで二日間を過ごすことがとてもたいへんでした。
・もしもの時に三中を一番知っている私たちがリーダーシップを取れると思いました。
・被災者になってしまうことを日頃から意識して想像することが大切だと思いました。
・グループミーティングでは自分では出せない意見を聞けて、勉強になりました。
・震災に遭ってしまったら、みんなの中心に立ってみんなを助けていきたいです。

東調布第一小学校　「親子で防災サバイバル（防災講習）」　H28.11.19(土)

防災を考える上で一番大切なことは「想像力」だと思います。東一小の３･４年生のみんなと保護者のみなさんで、防災クイズとクロスロードゲームを行い、想像力を発揮して防災についてとことん考えてもらいました。

珍答名答想定外。想像力を働かせれば、どんな困難も解決します。

【子どもたちの感想（抜粋）】
・クイズでわかったことは覚えておいて、本当に地震があったときに活用したい。
・クロスロードゲームでは考えたことがバラバラになるものだ、ということがわかった。
【保護者の感想（抜粋）】
・グループ内の意見をまとめるのに苦労した。実際の避難所でどうなることやら…。
・防災についてあらためて家族で話し合いたいと思いました。

↑子どもたちは真剣に考える

↑子どもグループの後ろに大人グループ

←「防災すごろく」で遊ぶ

こらぼ大森夏まつり　H28.08.20(日)

縁プロジェクトとして、子ども向け防災ゲームを行いました。

「防災すごろく」と「防災ゲーム シャッフル」を来場した子どもたちや家族連れと一緒に楽しみました。

地域防災力を向上させよう
～縁プロジェクトの防災活動～

縁プロジェクトは、大田区などと連携して被災地・被災者および避難者への復旧・復興支援ボランティア活動を長期継続的に行っています。そして、この活動で培った経験やネットワークを活かしながら、大田区内で地域防災力の向上のために防災セミナーや避難所体験教室を開催しています。被災した現場を知っている私たちならではの視点で、より堅固な「地域防災力活動」を実施しています。

「防災リーダーになろう！」(消費者生活センター１階教室)　H28.04.16(土)

大規模災害時での避難所開設当初の避難所運営組織の業務を疑似体験することで、実際の発災時にスムーズな対応ができる能力を養う模擬体験ゲーム（ＨＵＧ）を行い、併せて大田区の防災語り部が、宮城県東松島市での災害ボランティア活動を通じて学んだことを話し、命を守ることを伝えました。

参加者でHUGをする

「大田区＆東松島市 絆音楽祭　ＴＴＴ講演」
（日本工学院専門学校）　H28.05.28(土)開催

ＴＴＴの正式名称は「TSUNAGU Teenager Tourguide of NOBIRU」。東日本大震災当時、東松島市立野蒜小学校に在籍していた子どもたちで結成された若い語り部のグループです。懸命に生き延びて５年経った今、被災した当時のことを語ってくれました。

自分の命を自分で守り、大地震と大津波から生還したふたりの話は、会場の皆さんに対して、大きな共感を与えることができました。

写真上:斉藤茉弥乃さん　写真下:小山綾さん

「女性の視点から災害避難所を考える」
（エセナおおた）
H28.06.25(土)開催

災害避難所はとかく男性中心で運営されているところが多いと聞きます。

そこで、女性が避難所の運営に入ることで、どんなメリットがあるか、また、女性ならではの視点を取り入れた避難所の運営をするためにどうすべきか、実際に東日本大震災時に避難所の運営に携わった、東松島市の松浦奈々子さんを迎えて考えました。

たとえば、トイレ･着替え･授乳の場など、避難所内の施設のことを中心に体験談を聞いて、参加者皆で避難所の運営を考えました。

「避難所運営ゲーム（HUG)」
（大森第三中学校）　H28.07.13(水)開催

災害が起こったら、大田区立の小中学校は避難所になります。学校の先生には大きな役割が課せられます。大森三中において先生方を対象にＨＵＧを行いました。さすがに先生たちは素早い判断をしていました。

↑左奥が講師の松浦奈々子さん

↓次々に繰り出す課題にさすがの先生方もとまどう(大森三中)

「出前防災セミナー（HUGと講話)」
（山王１・２丁目自治会）　H28.11.21(月)開催

避難所を運営するリーダーは苦悩の連続です。山王高齢者センターにおいて、山王１･２丁目自治会の皆さんと共に、ＨＵＧ(避難所運営ゲーム)で次々と読み上げられるカードに示された避難者の事情や刻一刻と変わる状況を考慮しながら課題の解決に取り組みました。

後半は東日本大震災の被災時の様子と現在の状況を紹介し、まだ復興の途上であることを伝え、また熊本地震の支援ボランティアの様子もお話しました。

←今年度初めての地域で行った「出前防災セミナー」でした。

【一番大切なこと】
大災害が起きたとき、最優先にすることはなんでしょう？

･･･それは
もちろん！

自分の命は、
自分で守ること！！